

2023年3月期第2四半期 決算説明会 質疑応答要旨

【業績 実績・予想】

Q: 2Q 営業利益の実績は会社計画比でどうだったか。部材・物流などの価格反映の進捗はどうか。

A: 1Q 時点では、2Q の利益を 1,200 億円程度と見込んだが、減産影響により 900 億円となった。車両減産を計画比-10%と見込んだがもう少し多くなったため。価格反映については交渉を進めており、当社見積のうち4~5割は合意頂いた。回収時期の期ずれはありうるが、年度末には遡り含めほぼ回収を目指す。

Q: 北米収益、外部環境悪化について説明してほしい。

A: もともと収益力の低い状態が続いていた。ミシガンにあるサーマル関係の拠点を整理、生産をメキシコとカナダに移すなどダウンサイジングして抜本的に収益力を変える。これまでも準備してきており、徐々に収益力が回復させる。また、テネシーでもポートフォリオの入れ替えを進め、電動化や安心安全や電子など注力分野の拠点とし収益力を強化する。

Q: 年間計画のリスクとオポチュニティ（好機）について教えてほしい。また半導体不足の解消タイミングをどう見ているか聞きたい。

A: 年間での減産リスクは当初計画に対して12%程度を織り込んでおり、そこから上振れすれば第一のオポチュニティ。また、上期に開発効率を上げるなどで固定費低減したが、その努力が下期に波及していく。材料、電子部品、エネルギー費などの価格反映活動も進めていく。為替もどちらかというオポチュニティ。

不安要因としては、北米港湾ストによる物流混乱など。現在在庫で対応しているが、ストの状況が落ち着いたら減らしていく。現在1兆1,000億を超える在庫があるが、1~1年半かけてコロナ前の8,000億のレベルに下げたい。在庫はリスクでありオポチュニティでもある。

半導体について、汎用部品の需給はかなり緩んでいる。自動車は固有のマイコン・ICが間に合っておらず、例えばいくつかのICを組み合わせたASICというICが足りない。これらに対し、ASICは汎用のもの3-4つにして代替品を使う、あるいは世代の変更に合わせて変えていく、などに取り組んでいる。自動車業界も進歩しなくてはならないと考えている。

【設備投資・研究開発費】

Q: 設備投資、研究開発の年間予想を変更したが、考え方を聞きたい。

A: 設備はコントロールや規律などの案件精査。研究開発はコントロールではなく、出力を落とさず効率化で減らす。技術が命であり、考え方を分けて額を減らしている。

以上